

● 大雨・洪水に関する注意報・警報

気象庁から、下記のような場合に「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけます。「注意報」「警報」「特別警報」は関係行政機関、都道府県や市町村へ伝達され防災活動等に利用されるほか、市町村や報道機関を通じて地域住民のみなさんへ伝えられます。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報」よりもはるかに高い危険度
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。 洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。 洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想されたときに発表。 「洪水」は、矢作川等の全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

このほか、数年に一度の猛烈な雨が観測された場合や、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」や「顕著な大雨に関する情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。

「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります

●大雨などのときには、テレビやラジオなどで最新の注意報・警報・特別警報の発表状況を確認するようにしましょう。また、NTTテレホンサービス「177」や気象庁ホームページ(<https://www.jma.go.jp/>)でも確認できます。※安城市に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

● 警戒レベルを用いた避難情報と防災気象情報

避難情報等

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	命の危険 直ちに身の安全を確保! 安全な避難ができず、命が危険な状況です。	緊急安全確保 ※2 ※2 必ず発令される情報ではない (安城市が発令)
《警戒レベル4までに必ず避難》		
警戒レベル4	危険な場所から全員避難! 災害リスクのある区域の居住者等は今すぐ避難してください。警戒レベル5の発令を待ってはいけません。	避難指示 (安城市が発令)
警戒レベル3	危険な場所から高齢者等は避難! 避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難を開始しましょう。	高齢者等避難 (安城市が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)

※1 警戒レベルは必ずしも1から5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

防災気象情報

警戒レベル相当情報(例)

警戒レベル5相当情報

氾濫発生情報
大雨特別警報 等

警戒レベル4相当情報

氾濫危険情報
土砂災害警戒情報 等

警戒レベル3相当情報

氾濫警戒情報
洪水警報
大雨警報 等

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

(国土交通省、気象庁、愛知県が発表)

内閣府HP「防災情報のページ」より

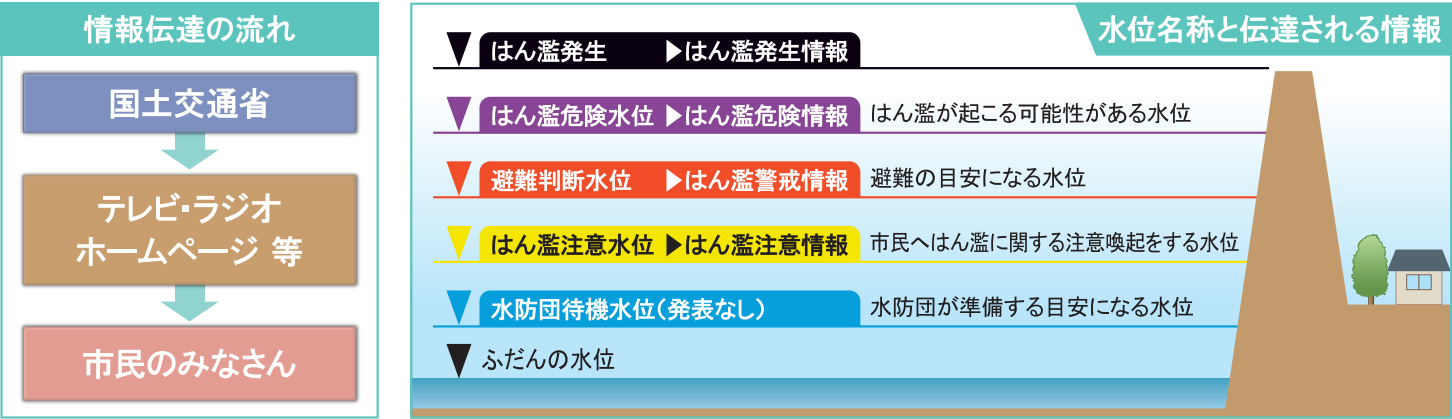
● 雨の強さと降り方(1時間雨量)

やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。	土砂降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。小河川ならはん濫、また、がけ崩れの心配もあります。	激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨で、多くの災害が発生します。	息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

※気象庁資料参照

河川のはん濫発生情報

川の水位が増え、洪水のおそれがあるとき、国土交通省から指定河川洪水予報が発表され、報道機関などを通じて一般に周知されます。指定河川洪水予報は危険に応じて、水位名称と合わせて伝達されます。

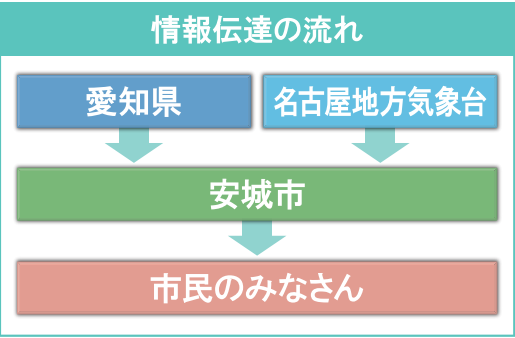


土砂災害警戒情報について

土砂災害警戒情報とは、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、愛知県と名古屋地方気象台が共同で発表する情報です。

土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、市からの情報を入手して避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報などにも十分注意しながら、避難行動をとってください。

※土砂災害警戒情報については、愛知県・名古屋地方気象台より、エリアメールでも一斉配信されます。



特別警報が発表されたら…

土砂災害警戒区域や浸水想定区域などでは、何らかの土砂災害や浸水害がすでに発生している可能性が極めて高く、警戒レベル5に相当します。指定された避難場所への避難がかえって危険な場合には、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保する必要があります。※今いる場所の災害発生の危険度を、気象庁HP等の「キキクル(危険度分布)」で確認してください。

特別警報の発表基準

大雨・暴風・高潮・波浪・大雪・暴風雪

「警報」の発表基準よりもはるかに危険度が高い場合に、「大雨特別警報」、「暴風特別警報」、「波浪特別警報」といった表現で発表します。なお、「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

現象の種類	発表基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合。
暴風	暴風が吹くと予想される場合。
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により、高潮になると予想される場合。
波浪	高波になると予想される場合。
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合。
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合。

※発表にあたっては、降水量、積雪量、台風の中心気圧、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて判断をします。